

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

その1

福岡県立筑紫丘高等学校

自己評価					学校関係者評価	
学校経営計画(4月)					評価(総合)	
学校運営方針	○豊かな心と創造力に富み、世界に貢献できる人材を育成する。 ○生徒が自ら考え、判断し、行動し、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する。				評価(総合)	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			評価(総合)	
昨年度は新教育課程に即した教育活動を円滑に展開することができた。今後も実践を通して検証を行い、適切な運用の実現と授業改善を図っていく。また、ICT機器の活用と探究活動の充実に取り組み、主体的・対話的で深い学びを推進することで課題発見・解決能力を高めることができた。今後は総合的な探究の時間の内容をさらに充実・発展させて探究活動の深化を図る。成人として社会に送り出すにあたり、社会の発展に主体的に寄与する自覚と責任ある態度を養う。	【知性】 高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力を育む。	(1)新しい時代にふさわしい教育内容・教育方法を探究・創造し、持続可能な社会の形成・発展に寄与する態度を育成する。 (2)言語活動を一層充実させ、あわせて思考力・判断力・表現力を育成することで、他者との協働性を養う。 (3)ICT機器の効果的な活用を図り、個別最適な学びと協働的な学びの実践と研究を推進する。			A	
	【社会性】 集団や社会の一員としての望ましい態度や行動の在り方を身に付けさせる。	(1)社会の一員としての自覚と責任を身につけると共に、集団の規律やルールを遵守する態度を育てる。 (2)授業をはじめ、部活動、学校行事等における他者との対話や活動を充実・深化させることで、健やかな心と身体を育成する。 (3)多様な人権課題を察知する力と、その解決に向けて実践的な行動を起こす力を育成する。				
	【気概】 自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち、社会の発展に貢献する高い志を持たせる。	(1)様々な実体験を通して自分の個性を理解し伸長させることにより、キャリアプランニング能力の形成を促す。 (2)難しい状況にあっても互いを高め合い、困難を克服することで、世界にはばたく力を身につけさせる。 (3)持続可能な社会の形成に参画し、自己の夢の実現とともに世のため人のために力を尽くす志を育成する。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
学力の向上	○高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力の育成	学力の向上・定着につながる考査の運用及び事前から事後までを含めた指導の徹底を図る。	A	A	新教育課程も2年目となり、これまでの実施状況を分析し、さらに大学入試の変化(共通テストで教科「情報」が追加実施されることなど)に対応したものとなるように、令和7年度入学生からの教育課程の編成(現行の教育課程からの修正)を決定した。編成した教育課程の実施までに次年度(令和6年度)は準備期間となることから、新しい学校設定科目などの準備を進めていく。年間指導計画やシラバスの見直しなどを進めていく予定である。また、3観点による評価方法についても、さらにより良いものとしていくことで、授業改善にも繋げていく。 ICT機器の活用を進めることにより、主体的・対話的で深い学びをさらに推進することができた。これによりさらなる授業改善を進めていくことになる。また、総合的な探究の時間の内容を充実・発展させ、充実した探究活動を推進することができたことと授業改善の取り組みを進めたことにより、課題発見・解決能力を高めるための探究活動の充実を次年度も図っていく。 科学技術コンテストは、理数科を中心に多くの生徒が受験し、学習意欲の喚起としての効果を十分にあげている。また、生徒が積極的に校外活動へ挑戦する気概の醸成も進んでいて、生徒の自然科学に対する興味・関心を高めるためにも、次年度以降も生徒の積極的な校外活動への参加を促して行く。また、今年度は、理数科の種子島・屋久島研修も実施することができ、他の理数科単独の行事も実施できた。次年度は、それらの内容を充実・発展させて実施していく予定である。	
		新教育課程や大学入試制度改革等への対応を見通した類型と指導方法の研究を進める。	A			
	○主体的な学習や他者との協働による思考力・判断力・表現力の育成	主体的・対話的で深い学びのある授業、ICT機器を活用した授業及び3観点での評価を実施する。	A	A		
		生活実態調査、出席統計など全職員で情報を共有し、きめ細やかな指導の徹底を図る。	A			
	○自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち社会の発展に貢献する高い志の涵養	総合的な探究の時間の内容・評価の検証を行い、更に充実した探究活動を推進する。	A	A		
		実用性の高いシラバスの作成・配付及び実際の授業進度との点検・修正を行う。	A			
○理数教育の充実	「高校生科学技術コンテスト」や「QFC-SP(九州大学未来創成科学者育成プロジェクト)」等への積極的参加を促進する。	A	A			
	理数科独自の研修やセミナー、講演会等の更なる充実を図り、生徒の内発的動機を喚起する。	A				
生徒の健全育成	○集団や社会の一員としての自覚と責任の育成	さわやかな挨拶と端正な身だしなみ、マナーや交通安全指導を徹底する。また、生徒の主体的清掃活動を促す。	B	B	年間を通じて、「集団や社会の一員としての自覚と責任の育成」において課題が残った。大多数の生徒は挨拶、マナー、交通安全等の意識もしっかりしているが、そうでないごく僅かの姿が目立ち、それが学校全体の姿であるかのような印象を与える危うさがある。全体として、自由に声をあげようという覇気にやや欠け、生徒個人の思想や発想の方向が外よりも内側に向いている印象が拭えなかった。これは新型コロナウイルスに伴う休校措置や学校行事の中止、規模縮小により、「上級生が下級生に範を示し、伝統、校風を伝える」機会が長年にわたり失われたことと大いに関係があると思われる。生徒達が、「自ら考え行動する姿勢」を身につけて人生を送るために、「自己を見つめ、内面から変化していく」契機を多く持たせることが必要であると感じる。 実際、学校行事を経験するたびに、生徒たちはリーダーシップ、フォロワーシップを育み成長した。その例として部活動集会が挙げられる。今後、部活動生が率先して学校の士気を高めていくことが期待できる。また、主体的清掃活動に関して、来年度、新旧の校舎が混在するため、日常の整理整頓、掃除徹底を今後さらに意識する必要がある。このような具体的なことから始めて、全体的なマナー、モラル向上についても、生徒会を筆頭に生徒達が主体となり、課題解決能力を発揮しながら、生徒個人が「言葉と自分、自分の周りを大切に」する「軸をしっかり」と築き上げ、その結果として、周囲から信頼され、愛される学校を作り上げていくことが目標である。 生徒理解の深化においては、学校生活アンケートや面談ウィーク、丘の上ほっとサロン、そして個別の指導計画等しっかりと体制を整え、教員間での情報共有の場を確保することはできている。しかし、実際にSNS上で起こっていることなどをリアルタイムで把握することが非常に難しい状況にある。今後の課題は、生徒が「未然に防ぐ」力を育むためにいかに上述のような働きかけをしていくかである。	
		いじめに対する認識を確認し、SNSを含めた生徒の動向を観察しながら、些細な兆候を見逃すことなく、いじめの早期発見に努め安全・安心な教育環境を確立する。	B			
		生徒の自主的な活動を奨励し、生徒会活動の活性化を図る。また、主体的なリーダー・フォロワーの育成を図る。	B			
		生徒が将来社会の一員として健全に社会参画できるよう、主権者教育の充実を図るとともに、自ら考え行動する集団の育成とモラル向上を図る。	B			
	○協働の喜び、達成感・連帯感の醸成	「筑高三大行事」の運営を通してリーダーシップ、フォロワーシップを育成しながら、組織の在り方を学ばせる。また、学んだこと、経験したことを日常の学校生活に反映させる指導の充実を図る。	A	A		
		部活動集会・部長会議を活用し、部活動生の意識向上につなげ、部活動を奨励する。	A			
	○生徒理解の深化	スクールカウンセリング、面談ウィーク、丘の上ほっとサロン等の教育相談体制を充実させ、生徒の心のサポートを行う。	B	A		
		生徒サポート委員会や学年会で生徒の状況を把握し、生徒を深く理解し、情報を共有して指導に当たることによって不適応傾向の早期発見に努める。	A			
		特別の支援を要する生徒への「合理的配慮」を推進し、指導体制を整えるとともに、保護者と連携し「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成するとともに、教員間の迅速な情報共有に努める。	A			
	○健康安全教育の充実	健康診断、身体測定、体力測定のスムーズな運営と精度を向上させる。	A	A		
心肺蘇生法、AED、アレルギー(エピペン含)研修を実施する。		A				
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見					
	<p>教職員の尽力により学力の向上に向けて着実な取り組みがなされていることがうかがえる。</p> <p>学校はコロナ禍の影響で、校外活動の制限を余儀なくされ、当初期待した学習効果が上げられないというジレンマもあったと思われるが、学校行事が従来に戻りつつあることから、学力のみならず、学習に対する意欲やチャレンジ精神の喚起を期待したい。</p> <p>しっかりした学力や教養を身に付けて、「学んでよかった」と思って卒業する学校であってほしい。</p>					
	<p>大運動会などの学校行事を実際に見て、先生方の自己評価が厳し過ぎるのではないかと感じる。困難を乗り越え、生徒たち自身の手で、成功へ導くよう指導した実績はもっと評価してもよいのではないかと感じる。</p> <p>生徒の自主性を信頼するにしてもやはり高校生には未熟な部分もあり、すべての判断を委ねるのは危険なので適切な指導もお願いしたい。</p> <p>また、内情を知らない外部からの意見で学校の運営方針がブレることがあってはならない。毅然とした対応を期待したい。</p>					

進路指導の充実	○主体的な学習を促すための進路指導計画の継続的改善	3年間を見通した学校の進路指導計画をもとに、模擬試験等の結果分析や生徒の学力実態、志望動向を把握し、生徒及び保護者が納得する進路実現を支援する。	A	A	A	主体的な学習を促すための進路指導計画について、各学年の進路担当教諭及び進路指導課長を中心に定期的に会議を重ね、先の見通しを立てて指導計画を推進してきた。課外、講座について、その在り方を含めて議論を重ね、生徒の学力実態や志望動向を把握しつつ、進路の方向性に適う進路指導の実現に向けて今後も継続して改善を図っていききたい。 新旧教育課程及び大学入学共通テストの入れ替わりの学年にあたり、今年度も情報の収集と提供を継続して実施してきた。次年度は教育課程と大学入学共通テストの両方とも新たな制度となる最初の年度にあたり、引き続き生徒及び保護者に適切に情報を提供していききたい。 社会に貢献する高い志・グローバルな視野をもつ人材の育成にかかる教育プログラムは例年通り実施することができたが、医学部・難関大学進学講座については、実施時期及び対象学年について改善を図りたい。具体的には、医学部・難関大学進学講座の受講対象を主に第1、2学年とすることで、よりキャリア教育に重点を置きたい。 思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成にかかる教育プログラムは例年通り実施することができたが、言語活動の充実を図る添削指導の成果等を、生徒の多様な進路希望に対応させた指導と連携をするなど改善を図りたい。
		生徒の多様な進路希望に対応した、類型別の課外、進路別二次対策講座を充実させる。また、難関大学の総合型選抜や学校推薦型選抜入試に対応した指導を行う。	A			
	○進路情報の提供による学習意欲の喚起	大学入試制度改革に関する情報の収集と提供を行い、生徒が広い視野を持って進路選択ができるよう進路指導を徹底するとともに、個人面談を中心としたサポート体制を整える。	A	A		
		難関大学を志望する生徒に対する情報提供等でサポート体制を充実させ、難関大志願者の増加を図る。	B			
	○社会に貢献する高い志・グローバルな視野をもつ人材の育成	社会人講演会や医学部・難関大学進学講座の一層の充実を図り、高い志をもつ大切さを喚起する。	B	B		
	高大連携事業、外部講座及びインターンシップへの参加を促し、グローバルな視野をもつ人材の育成を図る。	B				
○思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成	一般公募の小論文コンクール等に積極的に出品させる中で、添削指導を充実させて言語活動の充実を図る。	B	A			
	課題研究活動を中心に、社会及び学術的な課題を探究的に解決する態度を身につけさせる。	A				
広報活動の充実	○中学生とその保護者への積極的広報の推進	中学校、学習塾への広報活動を充実させると共に、理数科の広報のため第4・6学区の中学校訪問を積極的に実施する。	A	A	A	中学生の体験入学では、中学生向けと保護者向けで受付時間をずらして全体会を開催するなど、人数制限を設けることなく、1日の日程で実施することができ、多くの方に参加してもらった。参加者から寄せられた意見を参考にして、次年度体験入学の内容充実を図っていく。 第5学区の進路相談事業と中高連絡会、11月の本校から中学校・塾への訪問など、コロナ禍前の規模で実施することができた。また、学校案内、広報用ビデオなど、内容を深め、ホームページの更新頻度を高めるとともに、公式インスタグラムの充実を図るなど、本校の魅力をさらに発信していく。
		中学生やその保護者、地域の人々に本校の魅力を的確に伝えるために、「中学生の体験入学」の内容を改善充実させるとともに、小学生に対する広報活動にも広げていく。	A			
	○効果的な広報活動の展開	学校案内、広報資料、広報用ビデオ、ホームページでの最新情報提供等の内容を充実させ、本校の特色や魅力を外部に発信する。SNSの利用など、効果的な情報発信を行っていく。	B	A		
	本校の活性化のために、学校評議員や学校関係者評価委員に対し、積極的に学校行事への参加を要請するなどして、本校の教育活動に対しての意見を求めていく。	A				
図書活動の充実	○主体的な読書活動の推進と図書館の利用拡大	図書館オリエンテーションや読書週間を充実させる。また、読書案内「筑高の100冊」を活用し、生徒の主体的な読書活動や積極的な図書館利用を図る。	B	B	B	年度当初の図書館オリエンテーションは充実した取り組みができたが、「筑高の100冊」の改定は未着手のままである。今後内容の精査に努める。 夏季休業中の生徒図書委員合同研修会におけるワークショップの担当や、「来ぶらり」の発行、読書週間の文化部と共同で行った図書館フェアやBOOK CLUBの活動イベントの定期的な開催など、図書館司書の尽力で図書委員会を中心とした活動を活性化することができた。 芸術鑑賞は内容も素晴らしく生徒の満足度も高かった。今後の課題として生徒の理解や探究心をさらに高めるための事前指導の導入を検討したい。
		図書委員会の活性化により、読書環境の整備・魅力ある図書館運営を図る。	B			
	○情操教育の充実	芸術鑑賞を実施することにより、豊かな感性と多様な文化に親しむ態度を育成する。	A	A		
○学校文化の継承	生徒の主体的活動と学校独自の文化や歴史の記録として校誌「筑紫丘」の計画的作成を行う。ICTを活用し、編集の効率化を図る。	B	B			
事務室運営	○経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。	A	A	A	物価高騰の折、コスト意識を持ちながら効率的な予算の執行に努める。 教職員と連絡を密にして事務処理に努める。 生徒・保護者に対して、より分かりやすい的確な内容の情報発信に努めていく。
		各分掌と情報の共有化を図り、教員との緊密な連携によって学校経営目標を実現するための事務処理を行う。	A			
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。	A			

A	社会人講演会を始め、キャリア教育に力を入れていることは生徒たちの将来に必ず役立つと思われるので今後も推進してほしい。 課外の指導が希望制であることは理解するが生徒が「易きに流される」ことのない指導を期待したい。 社会に貢献する高い志やグローバルな視野を持つ人材の育成には小論文のコンクール等も効果があると思うので、検討してもらいたい。
A	中学生の体験入学は筑紫丘高校に憧れを抱き進学を希望する地域の受検生を確保する上で、重要かつ貴重な機会であるので、工夫を凝らして実施してもらいたい。
A	読書活動に力を入れ、図書館の取り組みを充実させているところは素晴らしい。 芸術鑑賞を通じて豊かな情操を育てほしい。
A	引き続き、正確で適正な事務処理をお願いしたい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>○科学技術コンテスト等を通じて、学習意欲の喚起を図り、生徒が積極的に校外活動に挑戦する気概の醸成に努める。 ○コロナ禍で失われた「上級生が下級生に範を示し伝統や校風を繋ぐ」という体制を再構築し「自ら考え行動する姿勢」を育成する。 ○「中学生の体験入学」を参加者の意見を参考にしつつ、グレードアップを進め、本校の魅力の発信に注力する。 ○キャリア教育や読書活動等のさらなる推進によって、生徒の将来に役立つ方策を多面的に行う。</p>
--

評価項目以外のものに関する意見

特になし
